

425. 筑波大学スポーツクリニックにおける トレーナー活動について

Eighteen months of Trainer's Room in University of Tsukuba Sports Clinic

トレーナー ○小柳好生, 水沢克子, 今井純子, 棚木聖也, 白木仁, 下條仁士, 河野一郎,
松田光生, 宮永豊, 朽堀申二, 林浩一郎 (筑波大学体育・臨床医)
スポーツクリニック ○YOSHIO KOYANAGI, KATSUKO MIZUSAWA, JUNKO IMAI, SEIYA MASEGI,
スポーツ傷害 HITOSHI SHIRAKI, HITOSHI SHIMOJOU, ICHIROU KOUNO, MITSUO MATSUDA,
YUTAKA MIYANAGA, SHINJI TOCHIBORI, ICHIROU HAYASHI (Univ. of Tsukuba)

<はじめに>

筑波大学では、スポーツ傷害に対するアスレティック・リハビリテーションの確立・実践を目指して、昭和62年12月より医学系及び体育系合同のプロジェクトチームによって「スポーツクリニック」が開設され、昭和63年3月には「トレーナーズルーム」が設置された。そこで今回は、設置から平成元年8月までの活動・利用状況について報告する。

<トレーナーズルームの特徴>

- 1) グランド・体育館に隣接した場所に設置されている。
- 2) 開室時間が各クラブの練習時間をカバーできるように設定している。
- 3) スタッフとしてクラブに関与している大学院生が活動している。

これらのことにより、受傷後のリハビリテーション、練習前後のケア、負傷者の出た場合の応急処置を行うのに選手が利用しやすい距離的・時間的位置にある。

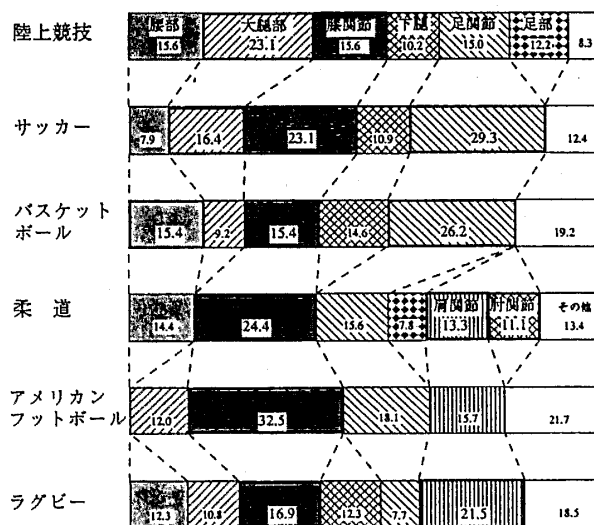
<活動・利用状況>

昭和63年3月から平成元年8月までの18ヶ月間の開室日数は422日、来室した新患者数は1052名、再来を含む延べ利用者数は7704名で1日平均18.3名が利用した。新患者1052名のうち医療機関を受診せずにトレーナーズルームだけ利用した選手は809名で、大腿・下腿の傷害のうち85%の者が、肩関節・肘関節の傷害のうち40%の者が医療機関を利用せずにトレーナーズルームを直接利用した。競技種目別新患者の割合は、多い順に陸上競技、サッカー、バスケットボール、柔道、アメリカンフットボール、ラグビーで全体の62.3%を占めている。この6競技それぞれについて受傷部位・受傷機転から特徴を見ると、陸上競技部はハムストリングや四頭筋の肉離れなどの大腿部の傷害が多かった。スプリント系や跳躍系では肉離れや捻挫などの外傷が、中・長距離ではオーバーストレスによる障害が多かった。サッカー部では足関節の捻挫、大腿部の肉離れ・打撲により来室するケースが多くみられた。打撲は膝関節や下腿部でも多

かった。バスケットボール部では、人の足に乗ったり、ジャンプした後の着地に失敗したときに足関節の捻挫を受傷しており、腰部の傷害は女子部員に多かった。柔道部では受身を取り損なって肩鎖関節の捻挫をしたり、関節技を掛けられて肘関節の靭帯を損傷することが他の競技に見られないところであった。アメリカンフットボール部の膝関節受傷者は手術を要するような重篤な場合が多くあった。ラグビー部では肩関節、膝関節の傷害が多かったが、タックルやあたりが受傷機転となっていた。各競技種目別の受傷部位・受傷機転を、個々の選手について分析すると、傷害が不可抗力なものばかりでなく、技術や体力が誘因となっている場合も多かった。

<まとめ>

- 1) 現場に近いところに設置されているために医療機関を受診していないものを含め多くの選手に利用されていた。
- 2) スタッフがクラブと密接な関係を持っているため受傷状況を把握できフィードバックを充分行えた。
- 3) スポーツクリニックとトレーナーズルームとの連絡が密に取れ選手の回復状態に応じた指示が出せた。



競技種目別受傷部位 (%)